

第5回シンポジウム基調講演

「統一原理が示す神観に出会って」

家庭連合二世の長澤と申します。私は現在、社会人の2年目として首都圏の会社に勤めています。

本日は、家庭連合の二世として、この一年間何を感じ、どう考えてきたのかを皆様にお伝えしたいと思いこの場に臨みました。

「統一教会の二世」といえば、「被害者」「かわいそうな人」もしくは「洗脳された人」と思われるかもしれませんが、多くの二世は、平日は仕事をして、教会に行くのは日曜の礼拝くらいという生活スタイルで過ごしています。私にも教会ではないコミュニティがありますし、社会的に見ればごく普通のサラリーマンです。しかし、去年の事件以降、家庭連合の信仰を持っているという、色眼鏡で見られるというのが、悲しいことに当たり前の世の中になってしまいました。私の周りの二世たちからは、「統一教会や宗教の信仰を持つことを揶揄するような会話が職場や学校で聞こえてくることがあるけれど、身近に家庭連合二世がいるかもしれないとは思わないのだろうか」、「家庭連合信者といっても、ただ社会で真面目に働いている、周りにいる普通の人なのに…」という声をよく聞きます。みなさんの周りにも、ごく普通に真面目に生きている教会員がいるかもしれません。にも関わらず、ネットニュースのコメント欄やSNSには、まるで周りに傷つく人はいないかのように悲惨な誹謗中傷で溢れています。

信仰を証しすることが怖い、自らの宗教を知られるのが怖い、家庭連合の二世として育ったことを知られたら今までの人間関係が崩れてしまうのではないか。会社をクビになるのではないか。学生の時からそうではあったけれど、こんなにも不安と恐怖を感じ、生きづらさを感じたことは人生で初めてでした。もちろん職場や友人にそのことを伝えることはできませんでした。そういう二世が大多数だと思います。

教会への関わり方は人それぞれですし、社会で生きるだけにおいては、信仰を隠すこともできますし、目を背けることもできます。しかしながら、向き合わなければ、教会員や二世たちが傷つき違和感を感じている現状は何も変わらないと思い、このように二世の会で活動することを決めました。

先日、10月13日には、文科省から教会に対する解散命令が東京地裁に請求されましたが、正直、受け入れることが難しい期間が続きました。怒りや反発、動揺というよりは自分でも驚くほどに至って冷静で、何の感情も湧かないような感覚でした。でも確かに、そこに

は心の穴がぽっかり空いたような喪失感がありました。

私が一番やるせない気持ちになるのは、今世の中に広まっている教会へのイメージがとても表面的で、悪いイメージのみが先行し、誰も教会員の本当の姿や、なぜ信仰をしているのかということが理解されることがないままに解散請求にまで至ってしまったことです。彼らはマインドコントロールされているから、信用ならない、聞く価値がない、そういった社会全体の雰囲気を感じました。「話の通じない人たち」と切り捨てられてきたと言う方が正しいかもしれません。

事件以降、世の中から批判される中でもなぜ信仰を続けるのかといった声もよく耳にします。私は家庭連合の二世信者として生まれ育ち、その信仰を手放さずに生きている理由の一つとしては、家庭連合の教義で示される「神様」という存在に納得感を覚え、信じてみたいなと思ったからです。

こういった場で、宗教のお話をするのは憚れるところなのですが、ここでは敢えて、家庭連合の「神様」について少しお話したいと思います。少し宗教的な話になるので、お聞き苦しい方もおられるかもしれませんが、少々お付き合いください。

私は二世として生まれ育ったので、物心ついた頃から、教会では神様の話や私たち人間がどのように生きていったらよいのかを学びますが、最初は正直、よく分かりませんでした。

幼い頃は、“神様”と言えば映画に出て来る「髭の生えた外国のおじいさん」といったイメージでしたが、そのような神様がいるとは全く思えませんでした。私は大学に入り、改めて統一原理を学び、これまでの人生経験とも照らし合わせていく中で、「形のない神様」「単なる概念ではない神様」という存在が腑に落ちるようになりました。

家庭連合で語られる神様は一言でよく「父母なる神」といいます。一神教的な全知全能の父なる神であると同時に、全世界や人類をかき抱く母なる神でもあります。そして、父母なる神様であるので、人間と同じように悩み、苦しみ、悲しみ、喜ぶ人格的な神様です。

「神」と言った時に、家庭連合の全ての信者が全く同じ神の姿を思い描いているわけではないと思いますし、また、他の宗教はさらに違うと思います。しかし、私はそれぞれが信じている神様は名前、表現方法が違うだけで、全て同じ神様だと思っています。そして、神様と人間、神様と私というのも、切り離された存在ではなくて、本質的には同一のものであるので、超越的・超人的神様であると同時に、自然や人間に対しても遍在している、人間にとって対等な、等身大の神様でもあります。そこに納得感を持ちましたし、そういった神様を信じたいと思いました。

数多の宗教が真理を説き、神を説きますが、全員が全員そうだと納得する事柄というものは信仰にはなりません。こうであってほしい、こうであるといいなということを感じるからこそ初めて信仰になると気づきました。

私は大学時代に航空宇宙工学を専攻し、ロケットのエンジンなどについて勉強していましたが、教会で出会った壮大な神観、宇宙全体すべてが法則性と秩序性をもって動いている、そんな大きな視点に影響されて、幼い頃から憧れていたという経緯もあります。

家庭連合に限らず、多くの宗教は崇高な理想を掲げて、平たく言えば世界平和を実現しようと活動しています。私はその大きな視点がとても立派であり、宗教が存在するべき理由であると同時に、目の前の現実や、時に、自身の家庭環境に目を向けることができなかつた背景でもあったのではないかと考えています。これまでも、教会に対する色んなバッシングがあり、そうした人間個人や組織の未熟さや行き過ぎた行動は反省するべき点ですが、家庭連合の教えや宗教自体がとんでも理論であったとは思っていません。

先ほどお伝えしましたが、今世の中に広まっている教会へのイメージがとても表面的で、教会員の本当の姿や、なぜ信仰をしているのかに関心を向ける人は少数です。しかし、私の目には信仰者の実際の姿がよく見えます。

私の父は今も神様に対する毎日のお祈りを大切にして、ウクライナやイスラエル情勢がありますが、早く戦争のない平和な世界が来るように、と心を込めて祈っています。母は「献金も形だけではいけない」と言って、その本質や心を込めることを大切にする人です。そんな両親の姿は信仰者という以前に一人の人間として尊敬しています。

人間は単純なことが理解しやすいし、複雑なことは理解できません。家庭連合は信者を洗脳して、高額献金をさせている。信者は被害者になるから救わなければならないというストーリーは分かりやすく、明快でとても食いつきやすいです。しかし、別の視点から見れば別の物語が見えてきます。

私は銃撃事件以降の家庭連合へのバッシングから始まり、宗教自体がなにか日本社会に害のあるもののように排除されるような風潮にとっても心苦しく思っています。私は宗教を信じる人生が変わってから、何かに失敗したことがあっても、全て意味があると前向きに思えるようになりました。また視野が小さくなりがちな時も、神様の視点で見つめれば、自分の利益のためというよりは、より公的な社会、日本、世界のためという視点を持てるようになりました。

私たちは、宗教の親をもつ「二世」という境遇に生まれ育ったからこそ、親が、そして私

自身が感じている宗教の価値についてより深く追求していかなければならないし、それを守る使命があると感じています。

しかし、宗教自体も科学技術が進歩した今の時代における新しいビジョンを示せてはいないのではないかと突っ込みが聞こえてきます。宗教と科学は矛盾し、対立するものではなくて、人間の幸せという一つの目的に向かって補完し合い発展しなければならないという教えも家庭連合にはありますが、教会の中にその具体的な道筋は示せていません。

だからこそ、「宗教」を排除するという考えの前に、「宗教の在り方」「役割」について議論し、より価値ある人生、より良い家庭、日本、世界となるように、模索していきたいと私自身、強く感じていますし、教会も事実や科学に対してはより謙虚に受け入れていく必要性があると感じています。そして、こういった議題の際は特に、ポジショントークに終始せず、大きな広い視野で本質的なお話がしたいと思います。現実に関われない思考、発想ができるのが宗教の特権であり、役割だと思うからです。

私は生まれながらに与えられた信仰について考え、結果信じて生きていこうと選択した立場です。一方で、宗教に馴染みのない家庭に生まれ、信仰を持たず生きている友人も私の周りにはたくさんいます。二世の多くは、家庭と学校や職場での人間関係、価値観の違いを理解しながら、教会と社会に折り合いを見つけて過ごしています。そういう異なる価値観を持った人と対話することが、当たり前に行える世の中になってほしいと私は願ってやみません。もっとオープンに話し合い、宗教はタブーだという日本の風潮が変わって欲しいと思っています。閉鎖的だった教会も、少しずつ社会と対話しようと変化していますし、今日はそうした場になると思います。

これからはパネルディスカッションになりますが、本日もお迎えしているジャーナリストの佐々木俊尚さんは、テクノロジーにお詳しく、また、宗教に対する理解も深い方です。現代、または未来における宗教の役割や必要性、そして、安倍元首相の暗殺事件から、家庭連合の解散請求に至る過程をどのように見ておられたのかについて佐々木さんと共に掘り下げていく時間にしていきたいと思っています。

それでは、基調講演を終えさせていただきます。ご清聴、ありがとうございました。